

進路の手引き

ロードマップ

令和7年度

大阪府立寝屋川高等学校

定時制の課程

進路指導部

年	組	番	名前
---	---	---	----

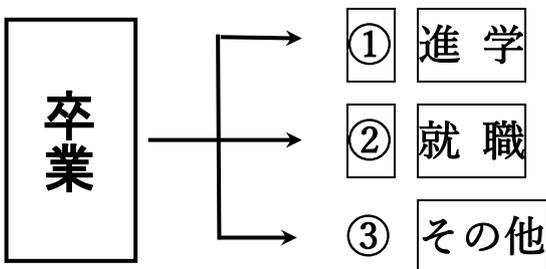
もくじ

はじめに	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 1
1 進路指導年間計画	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 2
2 進学	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 3
2-1 進学全般（大学、短期大学、専門学校の違い）		
2-2 進学方法		
2-3 専門学校を知る		
2-4 保護者の方へ		
3 就職	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 10
3-1 就職方法		
3-2 保護者の方へ		
4 その他	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 11
5 奨学金	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 12
6 障がいがある方の進路	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 13
6-1 働くことを学ぶ（進学）		
6-2 働く（就職）		
7 卒業生の主な進路	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 14
8 最後に	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 15

はじめに

このロードマップはあなたが高校を卒業するまで使うことになります。大切に保管して、なくさないようにしてください。入学時には長いと思う高校生活も、卒業する頃には「あっという間やった」と感じると思います。高校生活で勉強に部活に頑張れば頑張るほど、3年間や4年間は「あっという間」なのです。それでは、卒業した後は何をしますか。この「何を」を考えていくのが進路なのです。進路については早い段階で考えはじめたほうが、あなたにとって有利になります。でも、何からどう考えて、どう行動したらいいかわかりませんよね。まずはこのロードマップをじっくり読んでください。ロードマップを読んでもどうしたらいいかわからなければ、進路指導の先生に相談しにきてください。また、進路については、先生だけではなく家族にも相談しましょう。

高校卒業後には、大きく分けて3つの道があります。「進学」、「就職」、「その他」です。それぞれについて詳しく説明していきます。



卒業後の進路（過去10年間） ※+は浪人生を示す

卒業年度	卒業生	進学（3月末㍻）				就職（次年度6月末㍻）				
		大学	短大	専門学校	各種学校	学校紹介	自己開拓	縁故	公務員	パート
R6	29	3	1	4	0	6	4	0	0	8
R5	30	3	1	0	0	11	3	0	0	6
R4	27	0	3	3	0	10	4	0	0	0
R3	59	2	0	8	0	22	7	0	0	6
R2	58	4	0	9	0	17	7	0	0	14
R1	50	0	2	6	2	17	6	0	0	8
H30	45	3(+1)	0	10	1	9	4	0	1	6
H29	41	1	1	7	0	16	4	0	0	5
H28	61	2	2	7	1	14	13	0	0	14
H27	43	1	0	1(+1)	1	12	8	2	0	8

1 進路指導年間計画（2025 年度予定）

A：第1学年

- 5月 進路 HR① アルバイトについて ロードマップ配付
- 11月 秋の進路ガイダンス（企業、各種学校の紹介）
- 1月 進路 HR② 調査書について

B：第2学年（定時制生徒）

- 5月 進路 HR① 卒業学年のスケジュールについて
- 11月 秋の進路ガイダンス（企業、各種学校の紹介）
- 1月 進路 HR② アルバイトと正社員について

C：第2学年（通信制生徒）・第3学年（定時制生徒）

- 5月 進路 HR① 今後の学校生活について
- 11月 秋の進路ガイダンス（企業、各種学校の紹介）
- 1月 進路 HR② 求人票を見てみよう

D：卒業学年

- 5月 進路 HR① 就職希望者…就職活動の詳細と自己分析 ※その後 20 回程度の就職指導、就職ゼミ
進学希望者…進学の詳細スケジュール 入試について ※その後進学ゼミ 面接対策
- 11月 秋の進路ガイダンス（企業、各種学校の紹介）
- 1月 進路 HR② キャリア・パスポートで高校生活を振り返ろう



2 進学

2-1 進学全般（大学、短期大学(短大)、専門学校の違い）

進学はお金がかかり、国公立の学校や夜間部の学校であっても、かなりの金額が必要になります。私立大学では初年度納付金が150万円という学校が一般的です。これは学校(学部)によって異なるので十分な調べが必要です。進学を希望していても、経済的理由で進学を断念したケースもあります。そして「どうしても勉強がしたい」「技術を身につけたい」などの確固たる信念がないと、学生生活を続けることはとても難しく、せっかく入学したのに退学してしまうという場合もあります。土日や夏休みなどに開催されるオープンキャンパスを活用し、学校の特徴や雰囲気などをしっかりと見て、十分納得してから決めましょう。

進学を希望している皆さんは、将来就きたい仕事、進みたい分野を決めて、学校の情報を広く集め、その中から慎重に進学先を決定しましょう。

① 大学

大学では学ぶ分野ごとに「学部」が設置され、学部はさらに「学科」「専攻」「コース」などにわかれます。自分が選択した専門的な学問と、幅広い教養(一般教養)を身につける教育も受けることができます。また、少人数で1つのテーマを研究するゼミという授業もあります。4年間で124単位以上取得すると卒業でき、「学士」の学位が与えられます。卒業後は、多くの人が企業に就職したり大学院に進みますが、留学したり、専門学校に入学しなおす人もいます。

② 短期大学(短大)

大学と同じように幅広い教養と、職業や生活に役立つ実務教育(専門教育)の2本柱が特徴です。短期間のうちに、教養科目と専門科目を学ぶので、学生生活が忙しくなります。2年間で62単位以上取得すれば「短期大学士」の学位が与えられます。医療系の学科(看護、理学療法など)では、3年間で93単位以上が必要です。卒業後は就職する道と進学する道があります。近年、4年生大学への編入する人が増えています。

③ 専門学校

1年以上、2~3年で学ぶ、職業に直結した知識・技術、資格を身につけるための学校です。最大の特長は、実習の多さです。実習が多いと、欠席や遅刻・早退は禁物で、一日でも休んでしまうと、かなりの遅れを取ってしまいます。厳しい面もありますが、将来の目標がはっきりと決まっている人にはおすすめです。卒業者には「専門士」「高度専門士」の称号が与えられます。社会で即戦力になる人材を育てることが目的の学校なので、就職指導もしっかりとしてもらえます。

2-2 進学方法

〈受験校の選択・決定方法と入試対策〉

自分の興味・関心をふまえ「何を勉強し、身につけたいのか」「どんな資格を取りたいのか」「どんな仕事に就きたいか」などを考えます。その上で「進学にかかる費用」などを含め、家族と話し合っ
て決めましょう。推薦入試では、成績や出席状況の条件が設定されています。毎日の学校生活を大事にし、欠席・遅刻をしないことはもちろんですが、学校行事などにも積極的に参加しましょう。

〈入試対策〉

早いところでは6月から総合型選抜(旧AO入試)が、9月中旬から学校推薦型選抜(旧推薦入試)の願書受付が始まります。よって、早めに受験校をしぼる必要があります。オープンキャンパスは早い時期から行われているので、早めに参加し、自分自身の進学意欲を高めましょう。

〈受験準備〉

受験の準備には、学力対策の受験勉強と、費用対策の入学金等の準備が必要です。

・受験勉強(学力対策)

学力対策として、①日々の授業を大切にする、②自宅学習をする、この2点は基本です。あわせて、入試に必要な力(受験科目、小論文、面接等)を身につける必要があります。希望する学校の入試方法をふまえ、担任や進路指導の先生に相談しながら準備しましょう。

受験科目対策では、まず志望学校の過去問題集を解いてみましょう。外部の模擬試験を受験してみ、自分の実力を知り、これを自覚した上での努力が必要になります。

小論文は一般的には課題小論文で800字(原稿用紙2枚)程度です。課題に対する自己の考えを述べる内容のものが多く、自分の考えを明確に示し、具体例や他の考え方などを引用しながら、必ず書く練習をしましょう。

・入学金等の準備(費用対策)

費用対策としては、保護者と十分に相談しなければなりません。受験料・入学金・授業料等、受験～入学～卒業までには、相当のお金が必要です。また、一般的に受験料は出願時に、入学金は合格後10日以内に、前期授業料等は入学までに、それぞれ納付しなければなりません。進学先を決める時には、どの時期に、どれくらいの費用がかかるかを必ず調べ、保護者としっかり話し合いをし、準備しておきましょう。

奨学金制度については「**5 奨学金**」を見てください。

〈費用の例〉(1年次の年間)

	〇〇大学(経)	××大学(文)	△△短大	●●専門学校
検定料	35,000	35,000	30,000	20,000
入学金	200,000	250,000	300,000	
学費・授業料	1,062,000	720,000	830,000	学校、学科によって大きく異なるので、自分で調べましょう。
設備費等	120,000	160,000	150,000	
諸会費	18,000	114,500	96,200	
計	1,435,000	1,279,500	1,406,200	1,000,000 ~1,500,000

2-2-1 進学に向けてのスケジュール

時期	内容	詳細
～6月中旬	希望校の絞り込み	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内を自分で取り寄せ、学校の情報を得る ・問題集、参考書などについて、担任や進路担当などに相談
6月頃～	オープンキャンパスに参加	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校が行っているオープンキャンパスへ積極的に参加 ・オンラインのみの学校もある
7月頃～	総合選抜型入試出願	<ul style="list-style-type: none"> ・合格を早く決めたくても焦りは禁物 ・早い時期に合格が決まると、入学金等の納入が早くなるので注意
7月中旬	大学入学共通テスト 校内申し込み締切	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テストの受験希望者は担任の先生に相談
8月中旬～ 10月下旬	各種推薦入試・ 社会人入試出願	<ul style="list-style-type: none"> ・学校長の推薦が必要 ・推薦基準を確認し、早めに担任の先生に相談 ・入試申し込み時に必要な書類の確認
1月中旬	大学入学共通テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・入試に向けて日々の努力！
2月上旬	一般選抜	<ul style="list-style-type: none"> ・入試に向けて日々の努力！

2-2-2 入試方法の時期と詳細

入学試験には様々な方法があり、受験の時期が異なります。しっかり下調べをしましょう。

総合型選抜入試(旧AO入試)

入試時期	6月～12月
出願条件	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な出願資格がある ・規定の評定平均、出席状況を満たしている
選抜方法	面接・自己アピール・書類審査等
特徴等	<ul style="list-style-type: none"> ・受験生の目標と学校の教育目標が合致している ・学業以外の活動実績、将来に向けての意欲・情熱・適性を重視 ・自分の考えや意見をまとめ、表現できる
説明	<ul style="list-style-type: none"> ・出願者自身の人物像を大学側の求める学生像(アドミッション・ポリシー)と照らし合わせて合否を決める ・志望理由書や面接などにより、出願者の個性や適性に対して多面的な評価を試みる点に特色がある ・志望理由書などの選考書類や面接、小論文などで、アドミッション・ポリシーを理解し共鳴していることと、その大学・学部を強く志望していること、そして自分の能力と適性を積極的にアピールする必要がある ・「面白そうだから」「就職に有利だから」などの学問自体への興味を感じられない理由ではなく、なぜこの大学・学部で学びたいのかを具体的に述べるようにしておく ・6月ごろから実施している学校もあり、それぞれ入試方法が異なるので、よく調べる

学校推薦型選抜(指定校制)(公募制)

入試時期	10月～12月
出願条件	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な出願資格がある ・規定の評定平均・出席状況を満たしており、学校長の推薦がある
選抜方法	面接・書類審査・実技や小論文等
特徴等	<ul style="list-style-type: none"> ・大学・短大が高校に指定校を依頼する ・高校の成績や出席状況が優れており、目標・志望が明確である
説明	<ul style="list-style-type: none"> ・大学や短大が特定の高校を指定して推薦入学させる ・人数制限、<u>評定平均値が3.6以上</u>、<u>欠席日数が10日以内</u>などの条件が付いている ・基準を満たして出願すればほぼ合格できるが、<u>合格すれば必ず入学することが条件になっているので、受験者は他に</u>出願したり入学を辞退したりすることはできない

社会人入試

入試時期	10月～
出願条件	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な出願資格がある ・社会人であり、年齢制限を満たしている
選抜方法	面接・書類審査・小論文・学科試験等
特徴等	<ul style="list-style-type: none"> ・高卒資格と社会人資格が必要 ・小論文が必須科目
説明	<ul style="list-style-type: none"> ・一般入試の受験資格を持っていることが前提で、年齢や社会人としての勤続年数などの条件が加わる ・過去には高齢の生徒が進学した例もあり、年配生徒の進学希望者におすすめ ・大学、学部によっては英語等の筆記試験があり、「小論文」が必須科目となるので、この勉強は欠かせない ・「書類審査」では必ず「志望理由書」というものを要求される

一般選抜(大学入学共通テストも含む)

入試時期	1月下旬～3月
出願条件	・基本的な出願資格がある
選抜方法	学科試験・大学入学共通テスト併用等
特徴等	・相当の学力が必要
説明	<ul style="list-style-type: none"> ・各大学が行っている学科試験を受ける方法と、大学入学共通テストと学科試験の両方を受ける方法がある ・国公立の大学では大学入学共通テストの点数と、学校独自の学科試験の点数で合否を判定する ・私立や一部の公立校では、大学入試センター試験の点数のみで合否を判定したり、学校独自の学科試験の点数のみで合否を判定したりしており、判定される内容がテストの点数のみとなるので、相当な努力が必要

※大学入学共通テスト

毎年1月中旬に行っている大学の共通入学試験では、令和7年度からは各自がオンラインで申し込むこととなりますので、出願期間・締切りには十分に注意してください。

2-3 専門学校を知る

2-3-1 資格取得について

卒業すると資格が取得できたり、資格の受験資格が得られたりすることができますが、もちろん自分自身の努力が大いに必要になります。資格について紹介します。 ※名称が変わる資格もあります。

・専門学校を卒業すると受験資格が取得できる資格

2級建築士・航空操縦士・消防設備士・看護師・理学療法士・作業療法士・マッサージ師、鍼灸師・歯科衛生士・歯科技工士・臨床検査技師・理容師・美容師など

・専門学校を卒業すると試験の一部が免除される資格

自動車整備士・無線技術士・無線通信士・電気工事士・洋裁技術検定など

・専門学校を卒業すると、資格が取得できる資格

栄養士・調理師・幼稚園(二種)・小学校教諭(二種)・介護福祉士・養護教諭(二種)・保育士・社会福祉主事など

・検定合格に有利なもの

情報処理技術者・放射線取扱主任者・秘書技能検定・旅行業務取扱主任者など

2-3-2 分野と職種について

専門学校は、その学科の関連する職業がどの産業形態に属するかによって、以下の8つの系統・分野に分類されます。この分野からの就職先をしっかりと把握しておかないと、間違った学校選択になりかねません。自分は将来どのような仕事に就きたいのか。そしてその仕事に就くためには、どのような分野の専門学校を目指せばいいのか。この2つを考えてください。

・工業 (建築・自動車・電気等)	・商業実務 (会計等)	・医療 (作業療法・看護等)	・衛生 (歯科等)
・文化、教養 (法律・外国語・PC等)	・教育、福祉 (保育・介護等)	・服飾、家政 (調理・メイク等)	・農業 (園芸等)

2-3-3 専門学校選び

専門学校選びは、自分が将来就く仕事に直結しているので、慎重にならなければなりません。自分が将来就きたい仕事に必要な専門技能や専門技術を身につけられる学校を探すことが大切です。基礎学力、目的意識や持続力などについて、いま一度自分自身に問いかけてみましょう。

① 進学説明会（校内・外部会場での開催）へ積極的に参加

それぞれの学校の説明会やオープンキャンパスへ積極的に参加しましょう。学校案内からは見えな
い部分が見えたり、体験的なことをさせてもらえたり、入試担当の方と直接話ができたりします。同
一分野で複数校を比較・検討することが効果的です。

② 学校を詳しく調べる

自分がめざす分野が決まれば、いくつかの専門学校に絞られてきます。その学校が認可を受けてい
るか、就職状況、教育内容、取得資格、施設、設備、入学選考方法、学費、学費援助制度、奨学金制
度が活用できるかどうかなど、保護者や担任、進路指導の先生とともによく検討して選びましょう。
各学校に資料請求することはもちろんのこと、インターネットなどの情報を利用しましょう。

※認可を受けていない学校の中には、しっかりとしたカリキュラムを持ち、高い就職実績を挙げてい
る学校もありますが、「学生割引」「公的な奨学金」などを利用することができず、「学歴として
履歴書に記入」することができません。

③ 入学選考日程と入学選抜方法

A0入試、推薦入試、一般入試と分けて募集する学校から、随時受付をしている学校など、幅広い募
集方法があります。6月上旬から入試が始まるところもあるので、自分の志望校の情報は早く集めるよ
うにしましょう。多くの専門学校は、書類審査、面接を中心に合否を判定します。ただし、看護・医
療・福祉系などは学科試験が中心になります。目的意識の低い人、基礎学力不足の人、欠席日数の多
い人などは不合格になる場合があります。

2-4 保護者の方へ

進学をめざすには、何よりも資金が必要になりますが、まずはお子様の話を聞いてみてください。
本人の意志が固いようでしたら、奨学金などの利用も含めて、担任か進路担当へご相談ください。「働
きたくないからとりあえず進学したい」ということでない限り、できるだけ応援していただきますよ
う、よろしくお願いいたします。



3 就職

3-1 就職方法

① 学校紹介就職

学校紹介就職は学校がハローワークの業務を一部代行する形になっており、高校生ではこの就職の仕方が一般的です。学校紹介就職では 7月1日から事業所より求人票が送られてきます。その求人票をもとに働きたい事業所（受験希望事業所）を9月初旬に決定します。そして9月16日頃から面接・筆記試験などの「入社試験」が実施されます。

学校紹介就職を希望する場合は、総合的な探究で開講される「就職セミナー」を1年間受講する必要があります。この講座を受講できるのは卒業学年で就職を希望している生徒のみです。講座では入社試験の対策として、**履歴書の作成、筆記試験の勉強、面接練習**などを実施します。**面接試験**はすべての事業所が実施しています。また**筆記試験**を実施する事業所も多くあります。**学校の出席欠席状況と成績**の情報は調査書に記載して事業所に渡します。よって、日々の学習にも力を入れてください。

一次入社試験（9月16日頃解禁）を受験可能な事業所は、原則生徒一人に対して1社となっていますが、先方の条件によっては同時に2社を受験することも可能です。なお上記日程は変動する可能性があります。

なにより早めの準備、早めの就職活動をするのが大切です。

② 自己就職と縁故就職

自分でハローワークへ行ったり就職情報誌を読んだりして就職先を探したり、アルバイト先に正社員雇用してもらったりする**自己開拓就職**と、親戚や知り合いのコネで就職先を探す**縁故就職**があります。しかし、自己開拓就職や縁故就職で就職先を決定する場合でも、必ず担任の先生と進路指導の先生に相談してください。雇用トラブル回避のためにも学校から当該事業所へ連絡を取り、求人票の送付をお願いすることが可能です。求人票を送ってもらうことにより、事業所の労働条件などを明確に知ることができ、きちんとしたルールで就職活動が行われるので、入社までの不安は取り除かれます。

③ 公務員採用

各自治体によって採用人数、選考方法が違い、出願期間が早く設定されているものもあります。大阪市や大阪府の募集要項は学校に送ってくるので、必要な人は進路指導の先生へ申し出てください。学校紹介就職との併願はできないので注意してください。公務員をめざすためには、余程の覚悟と受験準備をしないと難しいです。

高校卒業程度の試験が課される例

国家公務員Ⅲ種	地方公務員初級	警察官	消防官
皇宮護衛官	刑務官	入国刑務官	裁判官事務官3種

3-2 保護者の方へ

本校では毎日の学校生活を無駄にしないよう、欠席・遅刻・早退を無くし、基礎学力をしっかりと身につけるような指導をしております。また、仕事をする上で必要なコミュニケーション能力を向上させなければなりません。そして、普段からの言葉づかい（敬語等）や態度も大切です。これらは数ヶ月間の付け焼刃で身につくものではありません。ご家庭でも日頃からのご協力をよろしくお願いします。

学校紹介による就職をご希望される場合は、別紙「学校紹介就職斡旋願い」に保護者の方の署名捺印をしていただくようお願いしております。また就職斡旋に関する学校の進路指導に、本人を必ず参加させるよう、ご協力願います。

就職の希望職種等については、本人の思いを十分に尊重した上で、ご家族で時間をかけて話し合ってください。7月以降、お子様が求人票を持って帰りますので、相談にのってあげてください。そして、応募先の決定にあたっては、保護者の方に最終的な承認をお願いしております。担任、進路担当からの連絡があった場合は、この点も確認させていただきます。また、ご家族のご要望（例：「こんな企業に就職させたい」等）があれば、担任か進路指導担当へご相談ください。

〈注意事項〉

事業所との連絡は、すべて学校からハローワークを通して行うという規則があります。保護者の方が事業所へ連絡をすることは違反行為になりますので、お気をつけください。事業所にお聞きしたいこと、就職全般についてご不明な点がありましたら、必ず学校へ連絡してください。

4 その他

様々な事情で就職できない、進学できないという場合があるかと思いますが、「働きたくないから何もしない」「ずっとアルバイトでいい」ということだけはやめましょう。また、仕事をリタイヤした等で就職する必要のない方の中で、「高校卒業後も継続して何かを学びたい」といったいわゆる「生涯学習」を考えているのであれば、担任か進路指導担当の教員までご相談ください。



5 奨学金 年度によって変更されますのでご了承ください。

奨学金を利用するには、タイムスケジュールを綿密に組むことが必要になります。奨学金は「借りる」ものであって「貰える」ものではありません。奨学金を受ける前に、保護者や担任、奨学金担当の先生とよく話し合って、無理のない返還計画を立ててください。

ここでは、進学予定者向けの日本学生支援機構予約奨学金について説明しますが、これ以外にも奨学金はあります。また、本校在籍中に受けることができる奨学金もあります。

進学予定者日本学生支援機構(JASSO)について(下記資料は2024年度のもの)

名称・問い合わせ先	資 格	貸 与 月 額・支 給 月 額																								
日本学生支援機構奨学金 わからないこと知りたいことは ホームページ https://www.jasso.go.jp/ モバイルサイト https://daigakujc.jp/jasso/	・優れた資質を有し、経済的理由により修学困難な方 ※学力・所得等の基準があります	○貸与奨学金 ・第一種奨学金(無利子) (月額：自宅通学の場合) 大学 国公立 最高月額 45,000円 最高月額以外 20,000円、30,000円 私立 最高月額 54,000円 最高月額以外 20,000円、30,000円、40,000円 短大・専修(専門) 国公立 最高月額 45,000円 最高月額以外 20,000円、30,000円 私立 最高月額 53,000円 最高月額以外 20,000円、30,000円、40,000円 ※第一種奨学金の「最高月額」は併用貸与の家計基準を満たしている場合のみ選択可。 ※他に、自宅外通学の場合があります ※給付奨学金と併せて利用する場合は、第一種奨学金の貸与される月額が制限されます。																								
		・第二種奨学金(有利子) 大学・短大・専修(専門) 2万円～12万円(1万円単位)から選択 ・入学時特別増額貸与奨学金(有利子) 大学・短大・専修(専門課程) 一時金として、10・20・30・40・50万円を貸与 ・海外留学の奨学金(有利子) 第二種奨学金と同じ ◎取り扱い窓口は在学している学校 ◎やむを得ない事由によって当初の約定とおりの返還ができなくなった場合は、割賦金額を減額して返還する制度または返還期限が猶予される制度があります																								
制度の詳細や最新の情報については文部科学省ホームページ「高等教育段階の教育費負担軽減」をご覧ください。 https://www.mext.go.jp/kyufu/index.htm		○給付奨学金 2020年4月から高等教育の修学支援新制度がスタートしました。住民税非課税世帯及びそれに準じる世帯の人を対象とした原則返還不要の奨学金制度です。給付奨学金の支給対象の学生は、授業料・入学金の減免(減額または免除)も併せて受けることができます。																								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">国公立</th> <th colspan="2">私立</th> </tr> <tr> <th>自宅通学</th> <th>自宅外通学</th> <th>自宅通学</th> <th>自宅外通学</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">大学 短期大学 専修学校 (専門課程)</td> <td>第Ⅰ区分</td> <td>29,200円 (33,300円)</td> <td>66,700円</td> <td>38,300円 (42,500円)</td> <td>75,800円</td> </tr> <tr> <td>第Ⅱ区分</td> <td>19,500円 (22,200円)</td> <td>44,500円</td> <td>25,600円 (28,400円)</td> <td>50,600円</td> </tr> <tr> <td>第Ⅲ区分</td> <td>9,800円 (11,100円)</td> <td>22,300円</td> <td>12,800円 (14,200円)</td> <td>25,300円</td> </tr> </tbody> </table>	区分	国公立		私立		自宅通学	自宅外通学	自宅通学	自宅外通学	大学 短期大学 専修学校 (専門課程)	第Ⅰ区分	29,200円 (33,300円)	66,700円	38,300円 (42,500円)	75,800円	第Ⅱ区分	19,500円 (22,200円)	44,500円	25,600円 (28,400円)	50,600円	第Ⅲ区分	9,800円 (11,100円)	22,300円	12,800円 (14,200円)
区分	国公立			私立																						
	自宅通学	自宅外通学	自宅通学	自宅外通学																						
大学 短期大学 専修学校 (専門課程)	第Ⅰ区分	29,200円 (33,300円)	66,700円	38,300円 (42,500円)	75,800円																					
	第Ⅱ区分	19,500円 (22,200円)	44,500円	25,600円 (28,400円)	50,600円																					
	第Ⅲ区分	9,800円 (11,100円)	22,300円	12,800円 (14,200円)	25,300円																					
		(注1) 自宅通学とは、学生が生計維持者(父母等)と同居している(またはこれに準ずる)状態をいう。 (注2) 生活保護を受けている生計維持者と同居している者及び児童養護施設等(※)から通学している者など、該当者のうち居住に要する費用につき給付奨学金による支援の必要性がないと認められる者は、上表のカッコ内の金額を適用する。 ※「児童養護施設等」とは、児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設(情緒障害児短期治療施設から改称)、児童自立生活援助事業(自立援助ホーム)を行う者、小規模住居型児童養育事業(ファミリーホーム)を行う者、里親をさします。 (注3) 通信教育課程は、授業形態(印刷教材、放送、スクーリング、メディア)、国公立・私立、自宅通学・自宅外通学の別に関らず、(第Ⅰ区分)51,000円、(第Ⅱ区分)34,000円、(第Ⅲ区分)17,000円が年1回支給される。																								

6 障がいがある方の進路

進学する場合も就職する場合も、障がい者手帳を取得することが大切です。この手帳が有ることによって、進路選択の幅が広がります。また、社会的な自立にもつながります。障がい者手帳には、「身体障がい者手帳」「療育手帳」「精神障がい者保健福祉手帳」の3種類がありますが、取得する為にはそれぞれに手続きが異なります。取得までに時間がかかる場合もありますので、卒業学年になる前の出来るだけ早い時期から、担任の先生はもちろん、進路指導室や保健室、教育相談担当の先生に相談してください。

6-1 働くことを学ぶ（進学）

① 職業能力開発校

色々な職業の訓練をしながら働く力を身につけます。科目や訓練の期間は学校によって違います。

② 大学、短大、専門学校

詳しくは「2-1 進学全般（大学、短大、専門学校の違い）」→P.4を見ましょう。

6-2 働く（就職）

① 企業就労 「企業就労」には3つの方法があります。

- ・一般就労
- ・一般企業の障がい者枠で就労
- ・特例子会社に就職

② 就労移行支援事業所（通所施設）

通所して、一般就労に向けて作業等を通じて就労に必要な知識、技術のトレーニングを行います。ここでは様々な職業訓練を受けて、就職に結びつくことを目指します。就労支援員もいて、自身の適性に合った職場探しや相談・アドバイスが受けられます。標準利用期間2年（最大1年間の更新可能）

③ 就労継続支援A型事業

仕事のしかたは一般企業と似ています。雇用契約を結び給料をもらいながら、一般就労をめざして必要な知識や技術を身につけます。最低賃金以上が支払われます。（利用期間の制限なし）

④ 就労継続支援B型事業

一般就労することが難しく、雇用契約を結んで働くことも難しい人が、一般就労をめざして通所します。少ない賃金をもらいながら色々な技術を身につけます。（利用期間の制限なし）

⑤ 入所施設（居住施設）

自分の力で生活ができるよう、施設に入所します。仕事をしたり、生活の仕方を学んだりします。

7 令和6年度卒業生の進路実績

8 最後に

今すぐはじめよう！ 未来の自分のために次のことをすぐにはじめましょう。

- 規律正しい生活（遅刻や欠席をしない etc.）を習慣づける
- ニュース、新聞などを見て時事問題に強くなる
- 基礎学力（国・数・英）をつける
- 挨拶など社会生活でのマナーを身につける
- 人と話をしてコミュニケーション力を高める
- 自分のやりたいことを考え、進路希望を定める